

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために 手を取り合おう

RI 会長テーマ

2025～2026 年度

大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

会 長 菅野 嘉洋

副会長 三田地大悟

幹 事 松田 福美



= 会長指針 =

そして社会も磨きましよう

．．． 例 会 記 録 ．．．

1 月第 4 週例会 2026 年 1 月 29 日（木）

ソ ン グ : 奉仕の理想 ボックス : 15,000 円 (報告者 佐藤裕貴会員)

本日出席率 : 前回修正後 % (メークアップ 名) (報告者 古内一二会員)

★ 会長の時間 : 菅野 嘉洋 会長



本日は「労働基準法が今度改正されるんですって」というお話をしたい
と思います。

先週末盛岡で私の所属する岩手社会保険労務士会の必須研修というもの
がありました。現在の労働法の第一人者といってもいい早稲田大学教授の
水町勇一郎さんという方が講話を行ったのですが、その話を聞いていくつ
か感じたことがありました。

労働基準法は労働者の生活と権利の保護を目的に 1947 年（昭和 22 年）
制定されました。そして 40 年後の昭和 62 年、日本人は働きすぎである
という時代を背景として、大規模な法改正が行われました。

具体的には 1 週間の法定労働時間が 48 時間が 40 時間となり、変形労働時間制という制度が導入されまし
た。それからさらに 40 年が経過する令和 9 年にまた大きな法改正が予定されております。

先の改正から 40 年、デジタル化の推進、コロナ禍を契機としたテレワークの普及等、働く環境というのも
大きく変遷しています。少子高齢化による労働人口の減少を背景に、働き方も多様性というのがキーワ
ードとなり、柔軟な働き方ができる環境の整備と、労働者の健康を維持するため、現在そしてこれからの働
き方に合わせた法改正というイメージだそうです。

水町教授の言葉にこういうものがあります。「労働法はとてもリアルで、ダイナミックで、ときに深くて、
楽しい。労働法は人間社会と深く結びつき、動的に変化する法律です」。労働法をわかりやくす表現した
言葉で私はすごくいいなと思います。

ただ、大事ななのは、なぜその変化が必要なのか、その背景となったものは何なのか、そもそもの法律の主
旨は何なのか、ということをきちんと理解すること、都合のいい部分だけを切り取るような真似はしない
こと、だと思います。

1905 年にロータリークラブが誕生してから 120 年。時代とともに組織も拡大し、考え方もどんどん新しく
立派なようになっています。

組織というのも動的に変化していくものですが、それに振り回されず、都合のいいところだけを切り取
らず、ロータリーが、そしてクラブが大事にしてきたものは何なのかを忘れず、迷ったときには 4 つのテ
ストに照らし合わせ判断していく、そういう部分を私は大事にしていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



幹事報告



1 ガバナー事務所より RLI 研修パートⅢの案内が届いています。

日 時 3月21日(土)9時 5分～16時15分

場 所 いわて県民情報交流センター会議室 803

登録料 テキストがある方 1,500 円 テキストが無い方 3,000 円

締め切 2月20日



本日のプログラム



フリーアワー：齊藤俊明会員卓話



現在3社合わせて121億の売り上げ、そのすべてが、玉子型のお菓子
中学の時野球部でピッチャーをやっていたが、父親に「野球部も勉強もやめろ」と言い続けられていたため、野球部はやめた。

ある日ふと学校の講堂を覗くと卓球部と柔道部が練習をしていた。

柔道部に魅せられ柔道部に入部。父親を説得し、これは続けた。

高校にだけは入らなければと思い入学。

しかし、貧しい家庭だったので864円の月謝が払えない。

これを納めないと、校長室の前に名前が貼られた。多分私が一番回数が多か

ったと思う。母親がどうにか支払ってくれて卒業。岩手県警に入り警察学校に入学。

しかし、長男の性が、6人兄弟の事が心配で、いつも気にかけていた。

1960年5月24日発生のチリ地震津波によってすべて流されたと聞き、赤崎出身の同級生と一緒にバスに乗り帰ってきた。バスの中は泣き声でいっぱいだった。

バスは、変電所までだったため、同級生も私も徒歩で家まで帰った。家はどうか残っていた。同級生の家族も無事だった。

すぐ下の弟が跡を継いでいた。やらざるを得なかったのだろう。再建は第一人では無理であった。父親は行政連絡員として、支援物資の配布や見舞金の支給に追われ、多忙を極めており、家の再建にまで手が回らない状況だった。

4月 警察学校をやめ

8月 津波の後片付けが完了 お菓子作りを再開

そのころイカ釣りが大漁で賑わっていた細浦市場で、5円の白あんパンなどを4円で販売。

一日2千個 8,000円ほどを売っていました。(店では、1～2万円の売り上げがありました。)

全部で手づくりの品なので夜遅くまで働いていた。

戦後の経済統制下、父親は闇米で大福餅を作り販売し、3回程逮捕されました。

転機は、昭和37年頃 おじから「鵠の玉子」を復活しろと言われたこと。「

鵠の玉子」は昭和26年に開発していた。

お菓子屋には絶対にならないと思っていたが、結局は「お菓子屋」になった。